

施策 5 - 1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●福岡の歴史資源の観光活用

博多旧市街プロジェクトの推進

- ・分かりやすいまち歩きモデルコースの設定 H29n : 2 コース → H30n : 5 コース
- ・旧市街統一デザインによる観光案内板等の改修 H29n : 29 基 → H30n : 36 基
- ★外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館、福岡アジア美術館）
H29n : 30,323 人 → H30n : 33,504 人
- ・「博多町家」ふるさと館及びはかた伝統工芸館の来館者数 H29n : 228,101 人 → H30n : 246,260 人

鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み

- ★鴻臚館跡整備基本計画を策定
- ★福岡城潮見櫓復元に係る基本設計及び発掘調査、祈念櫓石垣解体修理に係る調査を実施
- ・福岡城むかし探訪館来館者数 H29n : 30,557 人 → H30n : 28,398 人
- ・三の丸スクエア来館者数 H29n : 81,554 人 → H30n : 119,165 人
- ・鴻臚館跡展示館来館者数 H29n : 25,655 人 → H30n : 29,579 人
- ★外国人来館者数（福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館）
H29n : 45,520 人 → H30n : 96,936 人

サイクルツーリズム振興による志賀島周辺の集客促進

- ・志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 H29n : 4,304 人 → H30n : 4,779 人

文化財の観光資源としての活用促進

- ・吉武高木遺跡「やよいの風公園」での開催イベント数 H29n : 5 → H30n : 5

●魅力の磨き上げ

アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲 7 - 3>

- ・クリエイティブフェスタの来場者数 H29n : 約 85,000 人 → H30n : 約 87,000 人
- ・アジアフォーカス・福岡国際映画祭来場者数 H29n : 35,553 人 → H30n : 34,457 人

祭りの魅力発信

- ・効果的な祭りの魅力発信手法の検討

集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲 1 - 4>

- ・ハード・ソフト両面でのリニューアルを実施（H31.3 リニューアルオープン）

集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲 1 - 4>

- ・7 階「アートカフェ」で、市主催及び民間利用によるイベントやユニークベニューを実施
- ★外国人来館者数（福岡アジア美術館） H29n : 7,076 人 → H30n : 7,602 人

博物館機能の歴史文化資源としての価値向上

- ・「福岡市博物館所蔵 幽霊・妖怪画の世界展」（H30.7.7～H30.8.26） 観覧者数 : 25,431 人
- ・「浄土九州 - 九州の浄土教美術 -」（H30.9.15～H30.11.4） 観覧者数 : 21,001 人
- ★外国人来館者数（博物館） H29n : 7,938 人 → H30n : 10,534 人

ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲 6 - 4>

- ・海外のシェフ等との商談回数 H29n : 5 回 → H30n : 8 回

動植物園再生事業 <再掲 4-4>

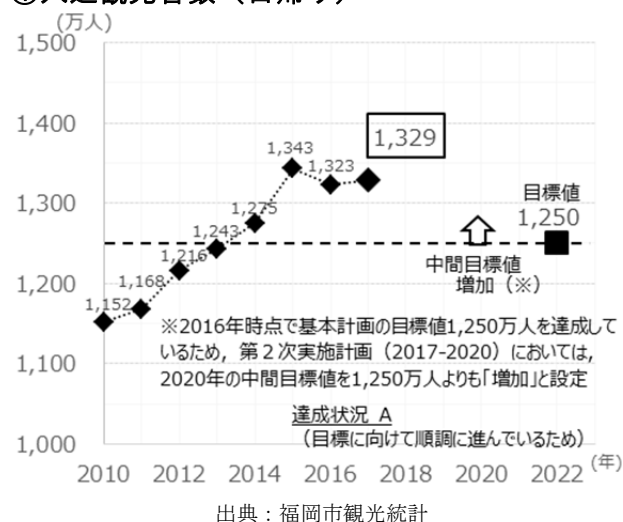
- ・エントランス複合施設の完成

特色ある公園づくり事業（高宮南緑地） <再掲 4-4>

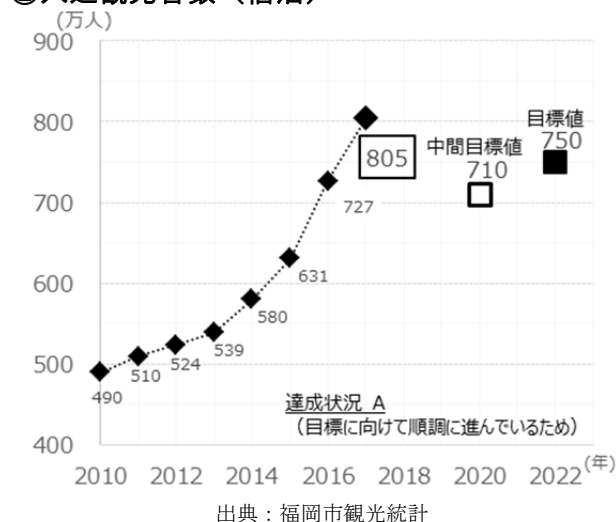
- ・旧高宮貝島家住宅を含む高宮南緑地の整備・管理運営を行う事業者を決定

2 成果指標等

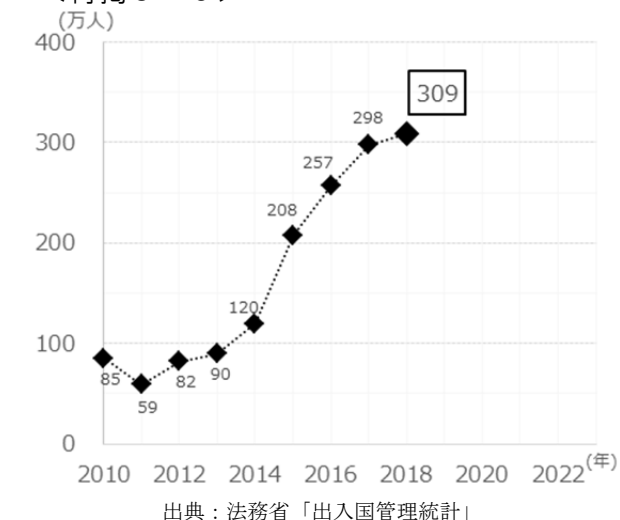
①入込観光客数（日帰り）



②入込観光客数（宿泊）



③福岡市への外国人来訪者数〔補完指標〕 <再掲 5-6>



<指標の分析>

指標①②ともに増加となっており、これはホテルの増加や観光・MICEの積極的な誘致・受入などが影響していると考えられる。

指標③は、増加となっており、これはLCC普及や円安、ビザ緩和等により訪日旅行需要が好調であり、入国者数が最も多い韓国をはじめ、台湾、香港などの東アジアやベトナム、フィリピン、マレーシアなどの東南アジアを中心に、入国者数が前年と比べて増えているためである。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●福岡の歴史資源の観光活用

博多旧市街プロジェクトの推進	
進捗	・ストーリーをつなぐ取組みとして、モデルコースの新規造成や体験プログラムの開発支援、市観光情報サイト「よかなび」内に「博多旧市街」特設ページを開設する等、多言語による情報発信などを実施した。 ・また、有識者のご意見をいただきながら、新たな観光施策について検討するとともに、博多区やエリアマネジメント団体によるプロジェクト推進連絡会議を設置し、官民連携の取組みとして関連イベントとの連携を図った。 ・観光情報サイト「よかなび」内に「博多旧市街」特設ページを開設 ・体験型コンテンツの開発、販売支援 ・ロゴを活用した博多旧市街のPR ・関連イベントとの連携 ・博多旧市街エリアの観光振興施策検討 ・キャナルシティ連絡通路に博多旧市街バナーの設置 ・福岡アジア美術館地区案内板設置 ・出来町公園観光バス駐車場整備 ・官民連携のプロジェクト推進連絡会議の設置 ・オープントップバス「博多旧市街コース」の造成 * 分かりやすいまち歩きモデルコースの設定 H29n：2コース → H30n：5コース * 旧市街統一デザインによる観光案内板等の改修 H29n：29基 → H30n：36基 * 外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館，はかた伝統工芸館，福岡アジア美術館） H29n：30,323人 → H30n：33,504人 * 「博多町家」ふるさと館及びはかた伝統工芸館の来館者数 H29n：228,101人 → H30n：246,260人
課題	・博多部において、価値ある資源をストーリーとストリートでつなぎ、「博多旧市街」エリアとして、市民や観光客が認知し楽しんでもらえる環境を整え、魅力を高める取組みを推進してきたが、観光資源の魅力を十分伝えられていない状況である。 ・自分たちが住んでいる地域に興味を持ち、誇りに思う気持ちを育てながら、「博多部」にある本物の魅力を磨き、市民や観光客にしっかりと伝えることが必要。
今後	・R1nは、ラグビーワールドカップを見据え、多言語での情報発信や体験プログラムの開発支援、関連イベントの開催など、博多旧市街エリア全体の観光振興の取組みを実施することで、博多旧市街エリアの観光資源の魅力をしっかりと発信する。引き続き地域住民等の意見を丁寧に向いながら個別具体的な事業の推進に取り組んでいく。 【ストーリーづくり】 ・体験型コンテンツの開発、販売支援 ・ロゴを活用した博多旧市街のPR，関連イベントの開催 ・ワールドカップ関連イベントとの連携 ・動画・フォトブック作成 ・マップのフランス語化 ・冷泉小学校跡地活用の検討 【まちなみづくり】 ・地区案内板の増設 ・旧市街の主な通りを歴史・文化に配慮した趣のある道路に整備する。 ・旧市街へ誘う承天寺通りにおいては、地域が作成した景観形成ルールに基づき都市景観形成地区指定の手続きを進めていく。

鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み

進捗	・H26n に策定した「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づき、潮見櫓復元に係る基本設計及び発掘調査、祈念櫓石垣解体修理に係る調査に着手した。 ・南丸多聞櫓の民間活用によるユニークベニュー「てのひら盆栽づくり at 多聞櫓」を実施。盆栽の展示、盆栽づくりのワークショップ、南丸多聞櫓内部公開を行った。2 日間の総来場者は 520 名。 ・歴史講座や古代染色などの体験講座を実施した。 ・鴻臚館跡整備基本計画を策定した。 ・セントラルパーク構想に基づく基本計画の策定において、鴻臚館・福岡城を活用したソフト施策について検討・実施。 ・三の丸スクエア内に着物体験スペースの設置 ・鴻臚館跡展示館及び前庭をユニークベニューとして活用したM I C Eのレセプション誘致 ・鴻臚館跡展示館において、ジャズのコンサート「JAZZ in 鴻臚館」を実施 ・博物館の「圧切長谷部」展と連動した模造刀による記念写真撮影会の実施 ・「福岡おもてなし武将隊」によるスペシャルガイドツアーの実施 ・民間事業者による乗馬体験の本格実施 ＊福岡城むかし探訪館来館者数 H29n：30,557 人 → H30n：28,398 人 ＊三の丸スクエア来館者数 H29n：81,554 人 → H30n：119,165 人 ＊鴻臚館跡展示館来館者数 H29n：25,655 人 → H30n：29,579 人 ＊外国人来館者数（福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館） H29n：45,520 人 → H30n：96,936 人 ・福岡城整備基金 ＊福岡城復元に当たり広く参加意識を醸成するため設置。平成 26 年 7 月条例施行 ＊目標額：3 億 5 千万円 ＊寄付実績：平成 30n 26,666,836 円、累計 68,291,791 円
課題	・史跡の周知を進めるとともに、史跡を活用した体験プログラムの開発など、市民や観光客が文化財を身近に感じるよう活用を図り、福岡の豊かで魅力ある観光資源の掘り起こしや磨き上げに取り組むことが必要。福岡城整備基金の寄付額は増加傾向にあるものの、引き続き事業周知拡大につとめることが必要。
今後	・乗馬体験や武将隊、居合演武の活用など、市民や個人観光客向けの観光プログラムの造成、市民やM I C E主催者等を対象としたユニークベニュー活用事業など、鴻臚館・福岡城を「使える・身近な史跡」として、観光面でのソフト施策を先行させて取り組んで行く。

サイクルツーリズム振興による志賀島周辺の集客促進

進捗	・サイクリストが安全に走行するために、砂が堆積しやすい「道切部」の清掃を実施。 ・地域事業者等と連携し、市営渡船志賀島航路、安田産業汽船・博多湾内航路（うみなかライン）の乗船券を購入した外国人旅行者等を対象に、島内の協力店舗で利用できる割引クーポンを配布。 ・サイクルツーリズム広報ポスター・ちらしを作成し、島内や観光案内所、ベイサイドプレイス博多等での広報を実施。 ・市観光情報サイト「よかなび」において、外国人旅行者向け観光商品のPRを実施。 ＊志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 H29n：4,304 人 → H30n：4,779 人
課題	・引き続き、サイクリストの安全確保に努めるとともに、観光消費の拡大や、より一層のPRを図る必要がある。
今後	・サイクリストの安全確保に取り組む。 ・地域事業者等と連携し、国内外からの観光客に向けたPRや、店舗等での多言語対応推進など受入環境の整備を進める。

文化財の観光資源としての活用促進	
進捗	・ H29.4 に開園した吉武高木遺跡「やよいの風公園」については、地域や史跡保存会との連携を密接に図りながら、学習活動や活用事業の促進に取り組んだ。特に 11 月に開催した「コスモスまつり」は公園近くの空き地で保存会と取り組んでいる「花畑プロジェクト」による成果を活用したイベントで、多くの来園者を得た。 * 吉武高木遺跡「やよいの風公園」での開催イベント数 H29n : 5 → H30n : 5 ・ 庚寅銘大刀については、国の重要文化財指定に向けた資料の整理や文化庁との協議を行うとともに実物や製作した複製品等を「庚寅の日」に展示し、あわせて図録の作成を行った。
課題	・ 吉武高木遺跡や庚寅銘大刀については、観光資源としての活用促進のため、積極的な広報や周知により、認知度を高めることが課題である。
今後	・ 吉武高木遺跡については、観光資源としての活用を促進するため、地域や交通機関などとも連携を図りながら、魅力あるイベントの開催や情報発信に努める。 ・ 庚寅銘大刀については、重要文化財指定後、実物を福岡市博物館で展示するとともに製作した復元品や複製品の展示や貸し出し等を行い、積極的に活用する。

●魅力の磨き上げ

アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲 7-3>	
進捗	・ 「アジアと創る」をコンセプトに、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジア文化賞、クリエイティブフェスタの主要事業に加え、アジア、クリエイティブをテーマとした民間企業・団体などの各種事業と連携を図り、「アジアンパーティ」として、9 月～10 月に集中開催（18 事業、約 44 万人が参加）。 ・ アジアフォーカス・福岡国際映画祭では、338 本(映像作品、関連企画含む)の優れたアジア映画を上映したほか、監督や出演者を招いたイベントを実施。 * アジアフォーカス・福岡国際映画祭来場者数 H29n : 35,553 人 → H30n : 34,457 人(関連企画含む) ・ クリエイティブフェスタでは、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を国内外に広く P R するため、福岡市役所西側ふれあい広場にてイベントを実施。 * クリエイティブフェスタの来場者数 H29n : 約 85,000 人 → H30n : 約 87,000 人
課題	・ アジアンパーティは、H30n に 6 年目を迎え、参加人数・認知度について一定の成果が得られているが、今後も引き続き事業の背景・趣旨や目的の周知に努める必要がある。
今後	・ さらなる認知度向上、効果的な事業展開にむけて、民間企業・団体との連携強化を図る。 ・ アジアフォーカス・福岡国際映画祭については、アジアンパーティの主要事業の 1 つとして、映画だけでなく、映像分野を一体的に振興し、効果的な広報に努めることで、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」のブランディングを推進する。 ・ クリエイティブフェスタについては、アジアンパーティの中核イベントとして開催し、さらなる集客とブランディングを図る。

祭りの魅力発信

進捗	・ユネスコ無形文化遺産登録記念イベント「祭 WITH THE KYUSHU」に参加した5都市（福岡市・北九州市・唐津市・日田市・八代市）の連携を図るため、行政担当者及び祭り関係者による交流会を実施。 ・国内外へ祭りの魅力発信のため、二大祭り（博多祇園山笠、博多松囃子）の他都市への派遣の検討を行った。
課題	・ユネスコ無形文化遺産に登録されている博多祇園山笠や、国重要無形文化財の指定が見込まれる博多松囃子への更なる誘客促進に向け、祭りの魅力を効果的に発信する手法について、検討が必要。
今後	・博多祇園山笠や博多松囃子をはじめとした祭りの魅力を国内外の観光客に発信できるよう、海外での宣伝活動や大規模集客イベント等を活用したPRを行い、更なる誘客促進に努める。

集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲 1-4>

進捗	・施設改修工事の完了（H30.9）、リニューアルオープン（H31.3）。 ・リニューアルオープン記念展の開催。 ・SNSを通じた情報発信、ホームページの更新や収蔵品情報システムの開発。
課題	・ユニバーサルデザインへ対応するとともに、時代や市民のニーズに応える集客交流拠点として魅力向上を図ることが必要。
今後	・魅力ある展覧会の開催のほか、SNSなどによる積極的な情報発信を通して美術館の認知度を高め、多くの市民が来館するような様々な取組みを行っていく。

集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲 1-4>

進捗	・「アートカフェ」の整備（H30.3）後は、積極的に活用を推進し、市主催や民間利用による様々なイベントやレセプション等に利用されている。 ・施設利用者数 H29n：327,445人 → H30n：462,725人 ・外国人来館者数 H29n：7,076人 → H30n：7,602人 ・アートカフェ利用件数 H30n：14件
課題	・「アートカフェ」を、多様なイベント等が開催される当館の新たな魅力空間として内外に発信していくことが課題である。
今後	・交流事業で招聘している美術作家による交流イベントや、「アートカフェ」で定期的に音楽演奏や伝統芸能公演等を実施するなど、多様な文化芸術に出会える、博多部の新たな集客交流拠点として、より一層、市民や観光客の認知度を高めていく。

博物館機能の歴史文化資源としての価値向上

進捗	・夏休みに親と子を対象とした『「蒙古襲来」史跡めぐりマップを作ろう!』を実施。博物館ワークショップサポーターの企画によるもので、展示室を見学後、元寇防塁などの蒙古襲来にかかわる史跡を歩いて探索。こども達がオリジナルのマップを作成し蒙古襲来について学んでもらった。対象：小学校4～6年生とその保護者 参加者：39名 ・市内小学校の休暇期間を活用し、金印の使い方（封泥）を知るワークショップ「こども博物館」を計3回実施し、340人が体験した。 *福岡市博物館所蔵 幽霊・妖怪画の世界展（H30.7.7～H30.8.26） 観覧者数：25,431人 *浄土九州 - 九州の浄土教美術 - （H30.9.15～H30.11.4） 観覧者数：21,001人 *外国人来館者数（博物館） H29n：7,938人 → H30n：10,534人
課題	・歴史・文化や集客交流拠点としての認知度をさらに高めることが課題。 ・地域住民、観光客など多様なニーズに合わせた事業展開。
今後	・展示内容の充実や関係機関との連携強化などを図り、SNSなどさまざまなメディアを活用し積極的な広報を行うとともに、ホームページ等の多言語での情報提供を充実させる。 ・2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、アンケート等により来館者のニーズを把握し、博物館の収蔵品や福岡の歴史・文化資源、地域と連動を図りながら、外国人観光客も楽しめるような魅力的な事業を実施する。 ・福岡の歴史・文化に関する事業の充実など、観覧だけではなく体験する機会の提供を推進する。

ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲6-4>

進捗	・市内産農水産物の国内外へのPRや販路拡大のため、福岡市ブランド水産物である「唐泊恵比須かき」を軸にした海外プロモーション活動や、マーケティング拠点施設（博多家（ハカタハウス））を活用した海外一流シェフやバイヤーの招聘活動を実施。 ・国内外の食のイベントでのPR活動として、H30.10に東京で開催された「東京ハーヴェスト」、H31.3に香港で開催された「テイスト・オブ・香港」に参加した。 *海外のシェフ等との商談回数 H29n：5回 → H30n：8回
課題	・現在、香港の複数の高級レストランへの「唐泊恵比須かき」や弘のサザエ、アサリ等市内産水産物の出荷が進みつつあるが、国内市場においては、知名度は必ずしも高いとは言えないため、海外PRを継続しながら、国内向けブランド強化・販路拡大の取組強化が必要。
今後	・市内産農水産物の海外PR活動及び海外一流シェフやバイヤーの招聘活動を継続しながら、国内向けブランド強化・販路拡大の取組として、引き続き関東圏で開催される食のイベント等に参加しPR活動を実施する。

動植物園再生事業 <再掲4-4>

進捗	・H28nから開始したエントランス複合施設の完成。
課題	・動物の個別の特徴や管理安全面に配慮しつつ、来園者の視点に立った魅力づくりや「また来たい」と思わせる特別な仕掛けづくりが必要。
今後	・人と地球にやさしい飼育及び植生環境と来園者の更なる利便性の改善を行うとともに、まちと自然が調和した快適な都市型動植物園へとリニューアルを推進。 ・ペンギン展示施設の整備に着手し、2020年度の完成を目指す。 ・ペンギン展示施設の整備に引き続き、「アフリカの草原エリア」、「日本の自然エリア」などを整備。

特色ある公園づくり事業（高宮南緑地）　＜再掲 4 - 4＞	
進捗	・ 旧高宮貝島家住宅を含む高宮南緑地の整備・管理運営を行う事業者を公募により決定。
課題	・ 本事業は民間活力の導入による魅力的な整備・管理運営を求めるものであるが、本事業地が市民に開かれた公園であり続けるよう、事業者との調整が必要。
今後	・ R1n は、市民に開かれた公園であり続けるよう、事業者との調整を行いながら、管理運営まで含んだ事業実施協定を締結し、整備に着手する。（R3n 開園予定）。

施策 5－2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

セントラルパーク構想の推進に向けた計画づくり

- ・セントラルパーク基本計画の策定に向けた検討
- ・鴻臚館跡整備基本計画の策定

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）

- ★イベントの年間開催日数 H29n：154 日 → H30n：145 日
- ・鴻臚館跡展示館来館者数 H29n：25,655 人 → H30n：29,579 人

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）

- ・福岡城整備基金寄付 H29n：10,518,145 円 → H30n：26,666,836 円

利活用を支える体制づくり

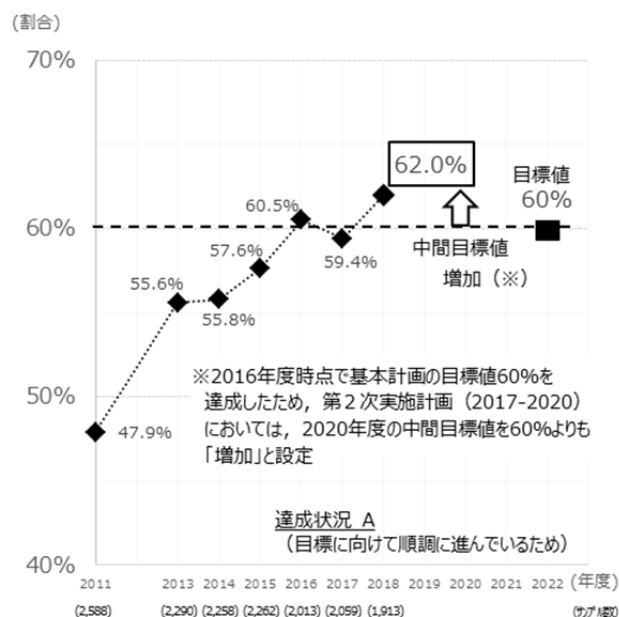
- ・大濠・舞鶴公園連絡会議の開催回数 H29n：2 回 → H30n：2 回

利活用を支える機能の充実

- ・サクラやアジサイ等，史跡や公園における見所づくり
- ・花の見頃に応じた移動式ベンチの設置，既存トイレの一部洋式化
- ・既存サインやベンチの更新
- ・城内住宅の移転率 H29n：72.4% → H30n：75.5%

2 成果指標等

①過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合



出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

<指標の分析>

指標①については、緑と歴史・文化に関するイベントや、指定管理者の自主事業の充実、多様な民間イベント等の受け入れなどによる取組みを推進したことが、指標の順調な推移に現れていると考えられる。

3 事業の進捗状況，成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

セントラルパーク構想の推進に向けた計画づくり	
進捗	・セントラルパーク基本計画の策定に向けた検討を行った。 ・鴻臚館跡整備基本計画を策定した。
課題	・国が新たに示した文化財や公園の利活用を重視する方針や公園マネジメントの視点を踏まえて、市民の憩いと集客の拠点づくりを目指す必要がある。 ・鴻臚館の特性を活かした現代的な活用や整備内容の詳細な検討が必要。
今後	・セントラルパーク基本計画に基づき、市民の憩いと集客の拠点づくりを目指す。 ・わかりやすい情報発信に努め、身近な史跡としての公開・活用を進めていく。

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）	
進捗	・福岡城さくらまつりの内容を充実させた。 ＊翻訳デバイスの導入、歴史的建造物でのアート作品展示、大道芸人の導入、野外ライブなどを実施 ・指定管理者の自主事業の充実により、利活用を推進した。 ＊福岡城梅まつりの内容充実（福岡コンベンションビューロー・むかし探訪館との連携） ＊福岡城秋の公園で遊ぼうの内容充実（自治会・市民ボランティア・西日本短期大学との連携、地域 NPO 法人との共催等） ＊ラジオ体操実施により地域コミュニティの場創出（21 日間、延 307 名参加） ＊マルシェ事業実施により日常の賑わいづくり（7 月～11 月 5 回実施） ＊三ノ丸バーベキュー事業 Green Magic MAIZURU の営業開始 ＊自然観察会の定期実施により、舞鶴公園利用者の新規開拓（月 1 回） ・多様な民間イベントを受入れ、季節毎の賑わいを創出した。 ＊イベントの年間開催日数 H29n：154 日 → H30n：145 日 ＊てのひら盆栽づくり at 多聞櫓（盆栽の展示、盆栽づくりのワークショップ） ＊九州ビアフェスティバル（クラフトビール・九州産食品の普及促進等） ＊フクオカマチキャンプ（キャンプや音楽イベント、ワークショップ） ＊健康すこやかウォーク（健康づくりをテーマにウォーキング、ステージイベント等） ＊ヨガ・マルシェ（大濠公園と舞鶴公園を一体的に活用した催し）など ・夏と秋と春のイベントをパッケージ化した「イベントガイド」を作成し、各所で配付した。 ・セントラルパーク構想に基づく基本計画の策定において、鴻臚館・福岡城を活用したソフト施策について検討を進めた。 ＊三の丸スクエア内に着物体験スペースの設置 ＊鴻臚館跡展示館及び前庭をユニークベニューとして活用した M I C E のレセプション誘致 ＊鴻臚館跡展示館において、ジャズのコンサート「JAZZ in 鴻臚館」を実施 ＊博物館の「圧切長谷部」展と連動した模造刀による記念写真撮影会の実施 ＊「福岡おもてなし武将隊」によるスペシャルガイドツアーの実施 ＊民間事業者による乗馬体験の本格実施 ＊鴻臚館跡展示館来館者数 H29n：25,655 人 → H30n：29,579 人
課題	・市民や観光客が四季を通じて楽しめる状況にはなっていない。 ・現地に電気・給排水設備が無いことがイベント主催者の負担になっている。 ・鴻臚館・福岡城エリアのさらなる魅力や認知度の向上が必要。 ・史跡を活用した体験プログラムの開発など、市民や観光客が福岡の歴史・文化を巡る環境整備や集客促進が課題。
今後	・都心部最大級の広場空間（舞鶴公園西広場・鴻臚館広場）を活用しつつ、国史跡鴻臚館跡や福岡城跡、四季折々の花々を観光資源として活かしていくため、福岡城さくらまつりを核とした多様なイベントの充実により、季節を通じた賑わい創出に取り組む。 ・キッチンカー及びマルシェの定期的な実施に向けた取組みを進める。 ・イベントしやすい環境を整えるため、園内の電気・給排水設備の整備を行う。 ・乗馬体験や武将隊、居合演武の活用など、市民や個人観光客向けの観光プログラムの造成、市民や M I C E 主催者等を対象としたユニークベニュー活用事業など、鴻臚館・福岡城を「使える・身近な史跡」として、観光面でのソフト施策を先行させて取り組んでいく。

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）

進捗	・市民と一体となって福岡城整備を推進する「福岡城整備基金」について、舞鶴公園をはじめとした市内各種イベントにおけるブース出展などのPR活動や、ふるさと納税制度を活用した福岡市ホームページによる周知、市内文化関連施設等へのリーフレット及び募金箱の設置、博多駅筑紫口ビジョンでのデジタルサイネージなどを行うとともに、歴史系雑誌への広告掲載や、日本最大規模のお城イベントである「お城 EXP02018」へのブース出展、各地の福岡県人会などと連携し、総会でのブース出展や、会員へのリーフレット配布を行うなど、市外のPRにも積極的に取り組むことで、基金の収益及び認知度の向上を図った。 ＊年度毎寄付実績（カッコ内は目標額） - H26n： 289 件， 8,225,019 円（10,000,000 円） - H27n： 248 件， 8,955,834 円（25,000,000 円） - H28n： 224 件， 13,925,957 円（25,000,000 円） - H29n： 165 件， 10,518,145 円（25,000,000 円） - H30n： 198 件， 26,666,836 円（25,000,000 円） - 累計：1,124 件， 68,291,791 円
課題	・福岡城整備基金の寄付額は増加傾向にあるものの、引き続き事業周知拡大につとめる。
今後	・福岡城整備基金について、幅広い市民の参加意識醸成を図るとともに、ターゲットを絞った寄付者の開拓及びリピーターの確保に努める。 ＊城内イベントと連携した寄付等の拡充 ＊福岡城独自の返礼品を付加することによる他基金との差別化 ＊リピーター確保に向けた寄付者への情報発信の強化や、歴史系雑誌等への広告掲載 ＊各種媒体を活用した広報の強化

利活用を支える体制づくり

進捗	・大濠公園と舞鶴公園の一体的な運用等に関する情報共有や協議検討を行うことを目的とした大濠・舞鶴公園連絡会議を開催。 ＊開催回数 H29n：2回 → H30n：2回 ・指定管理者の自主事業の充実により、市民との共働を促進した。 ＊小学校との連携強化を図るため、出前講座メニューを作成し、近隣小学校に配布 ＊市民ボランティアと共働で、花壇植付け等を実施 ・福岡市造園建設業協会・福岡市緑化協会のボランティアによる石垣除草を実施。
課題	・両公園内の複数の施設管理者や関係部局及び民間事業者等の公園に関わる様々な主体が連携した一体的な管理運営の実現に向け、大濠・舞鶴公園連絡会議の充実が必要。 ・さらなる市民・企業等との共働の取り組みが必要。
今後	・日常的に県民・市民、NPO、企業の知恵・労力・資金などを広く受入れ、効果的に活用していく仕組みづくりの検討を進める。

利活用を支える機能の充実	
進捗	・ 史跡や公園としての魅力向上のための見所づくりを実施。 * サクラの名所づくりに向け、剪定・土壌改良等を実施（上野橋，枝垂れ桜並木） * アジサイの見所づくりに向け，市民と共働でアジサイを植樹（下之橋，御高屋敷） * ツツジ園の見所づくり（ゲンカイツツジの育成） * コスモス畑・ナノハナ畑の育成による季節の花見どころ創出 * 梅園土壌改良実施により梅の花付き改良及び開花調査継続 ・ 舞鶴公園における回遊性・快適性の向上。 * 大濠公園と舞鶴公園共通のサインマニュアルに基づき，案内サインの設置 * 本丸，梅園において，ベンチの更新 * 花の見頃に応じた移動式ベンチの設置（指定管理者） * 既存トイレの一部を洋式化（1ヶ所） ・ 福岡高等裁判所跡地について，防災公園街区整備事業に着手した。 * 事業期間：H30n～R5n，債務負担行為議決済（H26.9月） ・ 城内住宅の移転を実施。 * 移転率 H29n：72.4％（142/196 区画）→ H30n：75.5％（148/196 区画）
課題	・ サインやベンチなど，老朽化した既存施設への対応が必要。 ・ 利活用を支える機能の充実については，将来の多様なニーズにも対応できる計画とするとともに，計画的な財源確保が必要である。 ・ 鴻臚館・福岡城の遺構の全容解明が必要。 ・ 見通しを阻害する樹木については，樹齢や健全度等を総合的に考慮しながら，強めの剪定や間引きの必要性を検討する必要がある。
今後	・ サインマニュアルに基づき，順次，既存サインの更新を進める。 ・ 老朽化したベンチの更新をする。 ・ 基本計画に基づき，計画的に公園整備や史跡の発掘調査・復元整備を推進する。 ・ 樹木整理等について，丁寧に周知等を行いながら進める。 ・ 福岡高等裁判所の跡地整備について，関係機関と連携しながら着実に進めていく。 ・ 城内住宅について，計画的に移転事業を進める。

施策 5－3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●おもてなしの向上

まち歩きガイド内容の拡充

- ・まち歩きコース数 H29n：49 コース → H30n：59 コース

官民共働による外国人の受入環境整備

- ・外国人旅行者の回遊性向上に向けた実証
H30n：観光ビッグデータを活用した観光案内・サービス実証を実施
- ・公衆無線 LAN サービス提供拠点数 H29n：104 ケ所 → H30n：109 ケ所

観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供

- ・本日開催イベント及びツアー情報の発信を開始
- ・「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 H29n：554 件 → H30n：788 件

●交通利便性や都心回遊性の向上

快適で高質な都心回遊空間の創出

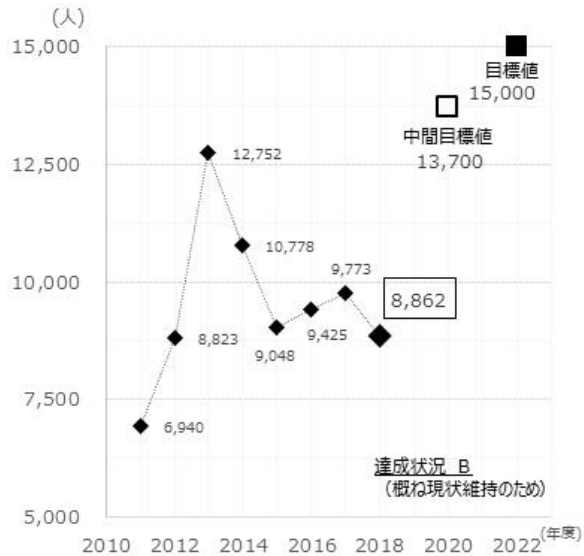
- ★はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備を実施
- ★民間事業者が整備するバスターミナルと博多駅とを結ぶ歩行者デッキの整備（H30n 実施設計）
- ★西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備と景観誘導
（H30.10 西中洲地区景観誘導街づくり計画登録 H31.3 現在 一部区間整備完了）
- ★国が整備する国道 202 号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出（迂回路橋整備中）

観光バス受入環境の改善 <再掲 5－6>

- ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数
H29n：5,777 台（H29.6.1 供用開始） → H30n：6,092 台

2 成果指標等

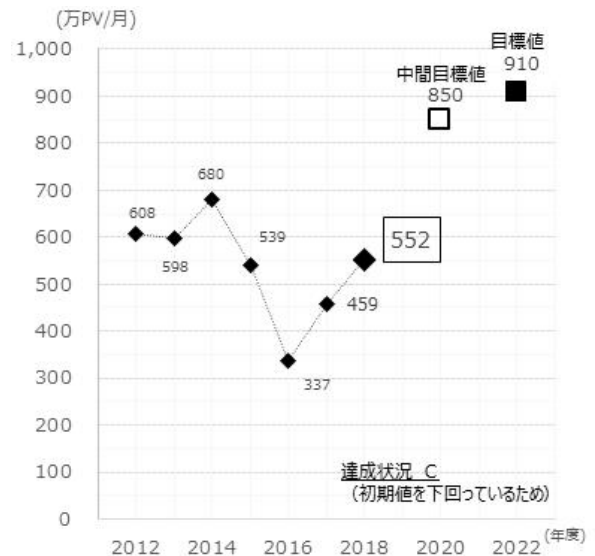
①観光案内ボランティアの案内人数



出典：福岡市経済観光文化局調べ

②観光情報サイトのアクセス数

(観光情報サイト「よかなび」の月間ページビュー)



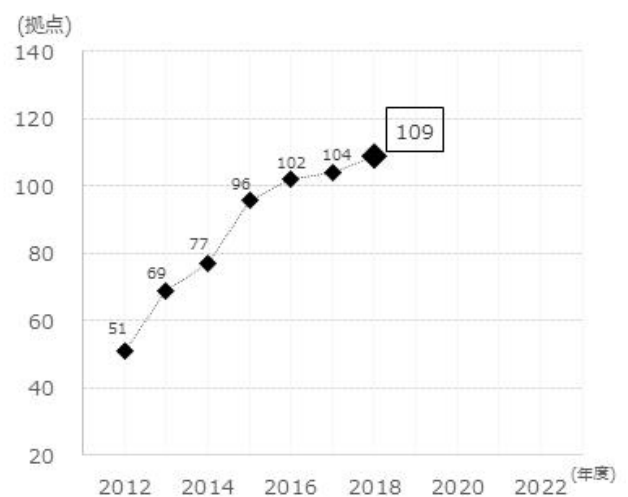
出典：福岡市経済観光文化局調べ

③「よかなび」へのスマートフォンでの訪問数 [補完指標]



出典：福岡市経済観光文化局調べ

④公衆無線 LAN サービス提供拠点数 [補完指標]



出典：福岡市市長室調べ

<指標の分析>

指標①は、昨年度比 911 人減となっており、これは荒天等によるイベントやまち歩きガイドの中止等によるものと考えられる。

指標②は、少ないページ間移動でスムーズに目的のページにたどりつけるようにサイトを全面リニューアルしたことなどの影響により、中間目標値達成に向けたペースは下回っている。しかし、サイト内のコンテンツが充実したことなどにより、H29n から増加傾向となっている。

また、指標③についても増加傾向にあり、これはスマートフォンからの利用に最適化したサイトリニューアルと観光客のニーズに応じた情報発信を行った結果と考えられる。

指標④は、昨年度比 5 増となっており、順調に環境整備が行われている。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●おもてなしの向上

まち歩きガイド内容の充実	
進捗	- 観光客の依頼に応じた派遣ガイドや企画募集型まち歩きガイド、市の観光施設等での観光案内・定時ツアーを実施。 *案内件数 H29n：958 件 → H30n：886 件 *案内人数 H29n：9,773 人 → H30n：8,862 人 - 福岡市内の様々な地域の魅力を再発見してもらうため、新コースを開発し、まち歩きの内容充実を図った。 *まち歩きコース数 H29n：49 コース → H30n：59 コース - 増加する外国人観光客に福岡の魅力を発信し、回遊性を促進するため、大学や通訳ボランティアガイド（ウェルカムサポーター）等と連携して、外国人観光客への観光案内を実施した。 - 市内の歴史・文化遺産を活かしたまち歩きコースをゲームキャラクターが案内する「歴史なびアプリ」を運用した。
課題	「まち歩き」ガイドについて、案内人数増加に向けて、観光客の様々なニーズに応じた観光案内を行う必要がある。 - 福岡市への外国人観光客は大きく増加しているが、外国語対応可能な人材が不足している。 「歴史なびアプリ」は、キャラクターの使用承諾の期限を迎えるため運用停止の予定。後続となるコンテンツを検討している。
今後	- 都心部以外の地域についても、新たな地域の魅力を発掘し、新コースを開発することにより、ガイド内容の拡充及び市内の回遊促進を図る。 - 外国語対応可能な人材の育成及び確保を行うとともに、他団体との連携や I o T の活用など、インバウンド向け観光案内の仕組み作りを行う。 - 観光ボランティアなどと連携し、福岡の歴史や文化財を様々な体験型観光プログラムなどで活用しながら、まち歩きのさらなる魅力向上を図る。あわせて SNS の活用など、双方向性や拡散力を重視した情報発信に努めていく。 「歴史なびアプリ」は、運用を停止し、後続となるコンテンツを検討する。

官民共働による外国人の受入環境整備	
進捗	- ぐるなびとの包括連携協定による、インバウンド対策セミナー（19 名参加）を実施。 - 国と連携し、観光案内所への問い合わせ情報など、ビッグデータを活用した AI チャットボットによる観光案内サービスの実証を実施。 - 無料公衆無線 LAN サービス「Fukuoka City Wi-Fi」の拠点拡大を官民共働により推進。 *公衆無線 LAN サービス提供拠点数 H29n：104 ヶ所 → H30n：109 ヶ所 *鴻臚館跡展示館に公衆無線 LAN 設置
課題	受入体制の強化については、観光施設や宿泊施設、交通機関、飲食店等と連携して取り組む必要がある。
今後	商店街・地域事業者が実施するおもてなしへの支援や、国や民間企業と連携し、I o T 等を活用した観光サービスの生産性向上などに取り組むことで、観光産業の振興を図るとともに、インバウンド対応や宿泊施設等の供給力強化など受入環境の充実を図る。

観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供

進捗	・国内外への情報発信として、5言語（日本語、英語、韓国語、中文簡体、中文繁体）で展開するとともに、主要な情報については、フランス語、ドイツ語、スペイン語、オランダ語、タイ語の5言語に加え、ベトナム語を新規作成。計11言語で発信。 *フランス語、タイ語、ベトナム語については内容の拡充（モデルコース、特集の掲載）を行った。 ・トップページでは、外国人旅行者を含む来福者の回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく観点から、今日福岡に来た人が、今福岡で行われているイベント等がひと目で分かるように「本日開催のイベント及びツアー情報」を発信している。 *「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 H29n:554件→H30n:788件
課題	・観光による経済効果が様々なエリアに行き渡るよう、情報発信に取り組んでいくことが必要。
今後	・様々なエリアの旬のコンテンツの発信に加え、外国人観光客のニーズを踏まえたコンテンツを作成し、多言語で発信することなどにより、サイト利用者の興味を喚起するほか、外国人観光客をはじめとする来福者に、「本日開催のイベント及びツアー情報」等をわかりやすく発信し、福岡市内における回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく。

●交通利便性や都心回遊性の向上

快適で高質な都心回遊空間の創出

進捗	・庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進。 ＜具体事業＞ *水辺を活かした空間の魅力づくりを推進するため、水上公園を再整備（H28.7 供用開始） *はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備（H28.7 工事着手） *新たに民間事業者が整備するバスターミナルと、博多駅とを結ぶ歩行者デッキの整備（H30n 実施設計） *西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備（H31.3 現在 一部区間整備完了）と景観誘導（H30.10 西中洲地区景観誘導街づくり計画登録） *国が整備する国道 202 号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出（迂回路橋整備中）
課題	・都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、主要プロジェクトの開業・供用時期や民間ビルの開発機運などを捉えた戦略的な推進が必要。
今後	・引き続き、都心回遊に関する関係者間の事業の調整・情報共有とともに、周辺のまちづくりの動向等を踏まえ、事業の具体化に向けた検討を着実に推進する。

観光バス受入環境の改善 ＜再掲 5 - 6＞

進捗	・観光地周辺等における活用可能性のある公有地等の調査・検討を行い、実施。 ・今津地区元寇防塁の観光バスへも対応した駐車場の供用。 ・福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。 ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 H29n : 5,777 台（H29.6.1 供用開始）→ H30n : 6,092 台 ・市営博多駐車場跡地における観光バスを含めたバス乗降場の確保について、施設運営事業者など関係者と運用方法等の協議・調整を行った。 ・博多区御供所地区の出来町公園における観光バス乗降場の運用。
課題	・観光地周辺等における恒久的な観光バス駐車場等の整備においては、十分な広さを有した適地の確保が困難。
今後	・観光バス駐車場等の確保に向けた活用可能性のある公有地等の調査・検討を行う。 ・クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。

施策 5－4 交流がビジネスを生む M I C E 拠点の形成

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

● M I C E 機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲 8－1>

★第 2 期展示場等について、P F I 事業の事業契約を締結するとともに、造成工事を実施

- ・新ホール等 M I C E 施設に係る施設計画や事業手法を検討（P F I 方式の活用）
- ・第 2 期展示場等における運営手法を検討（公共施設等運営権制度の活用）

都心循環 B R T の形成に向けた検討 <再掲 4－5>

- ・連節バスによる試行運行
- ・バスレーンの規制変更及び路面明示化

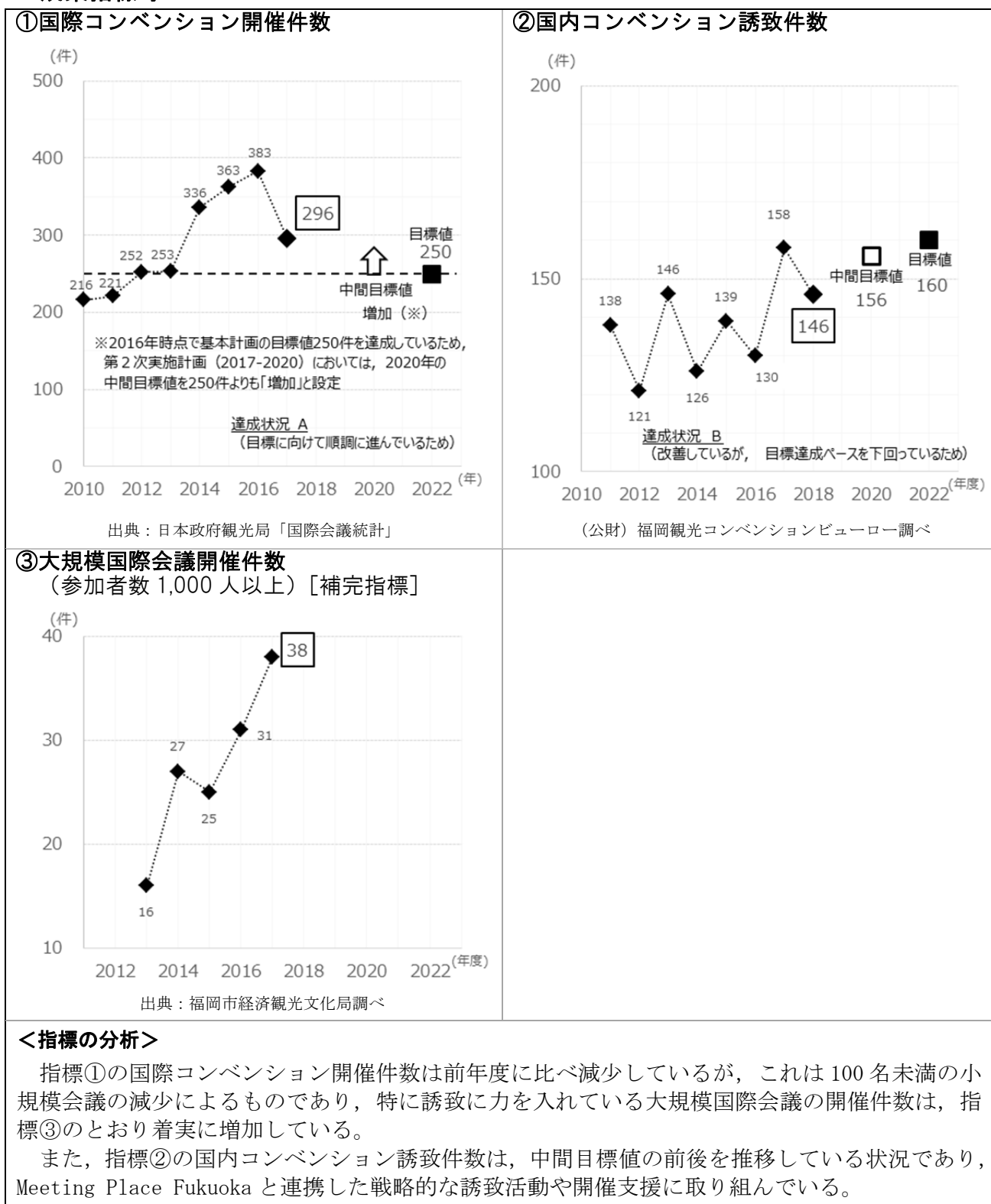
● M I C E 誘致の推進

戦略的な M I C E の誘致やビジネス振興

★海外見本市等商談件数 H29n : 213 件 → H30n : 128 件

- ・コンベンションサポート件数 H29n : 97 件 → H30n : 133 件
- ・国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 H29n : 14 件 → H30n : 14 件

2 成果指標等



3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●MICE機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲 8-1>

進捗	・第2期展示場及び立体駐車場の整備等については、H30.2にPFI事業者の公募を開始し、H30.9に落札者決定、H30.12に事業契約を締結するとともに、造成工事や臨時バス乗降場等の移転を行った。 ・新ホール等については、施設計画の検討を行い、整備等に当たっては民間ノウハウ等の活用により財政負担の軽減や平準化等が期待できるPFI（BTO）方式、MICE施設の運営に当たってはMICE誘致の強化やサービスの向上等を図るため、施設特性に応じて運営権制度を活用することとした。
課題	・ウォーターフロント地区において、展示場、会議場、ホールなどのMICE関連施設が徒歩圏内に一体的・機能的に配置された「オール・イン・ワン」の早期実現を図るため、ホテル・賑わい施設の誘致など魅力的で実現性の高いまちづくりが必要。
今後	・第2期展示場等については、2021年開館に向けて、引き続き、PFI事業者における施設の設計・工事を行うとともに、造成工事を進める。 ・新ホール等のMICE施設の整備やホテル等の誘致については、事業者公募に向けて準備を行うとともに、運営権の導入に向けて、検討を進めていく。

都心循環BRTの形成に向けた検討 <再掲 4-5>

進捗	・都心循環BRTの形成に向けた連節バスによる試行運行の実施。 ・専用走行空間のあり方として、都心部における路線バス全体の円滑な運行や、一般車両の安全と円滑化を図るため、交通管理者によるバスレーンの規制変更を実施するとともに、バスレーンの認識度を高める路面明示化を実施。
課題	・市民や来街者などを対象に実施したアンケート調査によると、「運行頻度の向上(15分に1便以上)」や「広報案内の充実」を求める意見が多いことから、西鉄や交通管理者と連携しながら、更なる運行頻度の向上や広報案内の充実に向けた取組みが必要。 ・全体として最適なバス交通とするため、郊外部のサービス水準を極力低下させずに都心部の交通負荷を低減することを基本としたバス路線の再編・効率化に継続的に取り組むことが必要。
今後	・連節バスによる試行運行については、今後も西鉄と連携しながら利用者動向等に応じた様々な検証・検討のもと、広報・案内の充実や運行頻度の向上にむけて取り組んでいく。 ・バス路線の再編・効率化については、全体として最適なバス交通とするため、引き続き西鉄において、乗り継ぎ施策と併せたバス路線の幹線・フィーダ化や、連節バス増便に併せて取り組む。

●M I C E誘致の推進

戦略的なM I C Eの誘致やビジネス振興	
進捗	・2018年には22年ぶりの日本開催となる「第16回アジア太平洋地域ITSフォーラム」及び社会科学のオリンピックと称される「WSSF（世界社会科学フォーラム）」が開催。 ・また、2019年には「G20財務大臣・中央銀行総裁会議」の開催が決定。 *海外見本市等商談件数 H29n：213件 → H30n：128件 *コンベンションサポート件数 H29n：97件 → H30n：133件 *国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 H29n：14件 → H30n：14件
課題	・外国人参加者が多く、世界的に知名度の高い国際会議や地場企業等のビジネスに繋がる展示会などの開催を更に増加させることが必要。
今後	・今後も積極的に誘致に取り組むとともに、より質の高いM I C Eを目指し、市内大学や福岡市M I C Eアンバサダーとの連携を強化し、戦略的なM I C E誘致を進める。 ・国家戦略特区の道路活用などユニークベニユーの活用を進め、M I C E開催地としての魅力向上に努める。

施策 5－5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

1 事業等の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取り組み

- ・博多の森陸上競技場及びレベルファイブスタジアムの改修
- ・ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会福岡支部の設置
- ・第 19 回 FINA 世界水泳選手権 2021 福岡大会組織委員会の設立
- ・世界フィギュアスケート国別対抗戦 2019 の開催に向けた準備

国際スポーツ大会等の合宿地としての取り組み

- ・スウェーデン及びノルウェーの各オリンピック委員会の視察対応
- ・ラグビーワールドカップ 2019 の公認キャンプ地に決定及び各チームの視察対応

総合体育館整備の推進 <再掲 1－5>

- ・H30. 12 から供用開始

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり

★アビスパ福岡によるサッカー教室の開催件数 H29n : 102 件 → H30n : 128 件

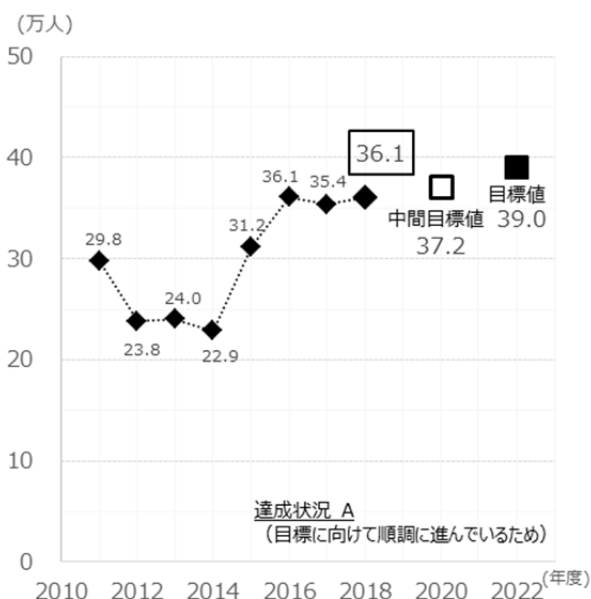
- ・観戦招待事業 H29n : 3 件 → H30n : 3 件
- ・心の教育プロジェクト H29n : 20 件 → H30n : 20 件

大相撲九州場所等に触れる機会づくり

- ・大相撲九州場所の広報支援として、街路灯バナーの掲出等を実施
- ・市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業を実施 H29n : 25 校 → H30n : 25 校
- ・こども観戦招待事業を実施 H29n : 285 人 → H30n : 290 人

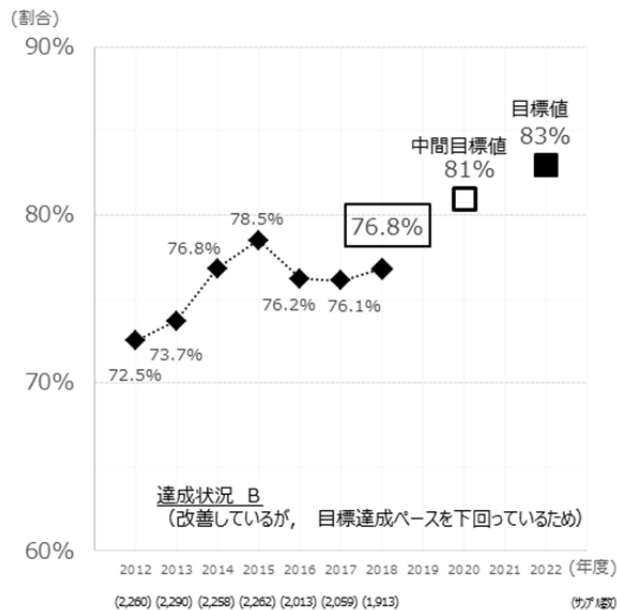
2 成果指標等

①福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数 (福岡ソフトバンクホークスを除く)



出典：福岡市市民局調べ

②スポーツ観戦の機会への評価 (福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思える市民の割合)



出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

<指標の分析>

指標①は、アビスパ福岡ホームゲームにおける市民応援デーの開催などにより、毎年安定して30万人以上の観客数となっており、目標値の達成に向けて順調に推移している。

また、指標②についても、多くのプロスポーツや国際大会の開催などにより、高い水準で推移している。

3 事業の進捗状況，成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み	
進捗	・2019年に開催される日本陸上競技選手権大会については、会場となる博多の森陸上競技場の改修や備品調達を実施（フィールドの一部改修（H31.3）、補助競技場の一部改修（H31.3）、インカム設備の導入（H31.3））。 ・ラグビーワールドカップ2019については、ラグビーワールドカップ2019組織委員会福岡支部が設置（H30.4）され、職員を派遣したほか、会場となるレベルファイブスタジアムにおいて、フィールドやエレベーター、音響設備等開催に必要な改修を実施。 また、ラグビーワールドカップ2019組織委員会と連携して大会ボランティアの募集及び研修を実施。 【地方創生推進交付金事業（横展開タイプ）】 大規模国際スポーツ大会を契機としたスポーツの振興及び地域の活性化 ・広域連携事業として申請。申請主体は福岡県であり、福岡市は連携自治体の1つとして参画する体制。 ・交通、警備、医療、防災、観光等に関する調査と計画策定 ・推進委員会開催・事務局運営などを通じた関連団体の連携強化 ・プロモーションツール制作、ラグビー普及活動、サポーター会員の募集、満員プロジェクト等関連イベントの開催 *重要業績評価指数（KPI） ・キャンプの受入やホストシティ・タウンの取組みを行う市町村数 H30n 目標値：18件 → 実績値：集計中 ・福岡県障害者体育大会の登録者数 H30n 目標値：868人 → 実績値：集計中 ・NPO・ボランティアと県との協働事業数 H30n 目標値：196事業 → 実績値：集計中 ・2021年に開催される世界水泳選手権福岡大会の開催に向けて、第19回FINA世界水泳選手権2021福岡大会組織委員会を設立（H30.9）。大会基本計画の策定に向け、国際水泳連盟及び日本水泳連盟など関係団体との協議を行ったほか、大会運営の詳細な検討・諸準備を進めていくために実行委員会を設置（H31.2）。 ・市民スポーツフェスタにおいて、大規模国際スポーツ大会のPRブースの設置やトップアスリートとふれあえる機会を創出（H30.10）。 ・世界フィギュアスケート国別対抗戦2019の開催に向けた準備。
課題	・新規国際スポーツ大会等の開催に関する情報収集が困難。 ・既存の競技施設については、老朽化や大規模な国際スポーツ大会の開催基準に満たないものがある。 ・市民に夢や希望を与え、青少年の健全育成や市民スポーツの振興に寄与するため、トップレベルの競技を観る機会だけでなく、実際にスポーツを体験する機会の提供も必要。
今後	・新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会について、各種競技団体やパートナー都市協定を締結したJOCと連携して招致を検討。 ・世界水泳選手権での活用に向けて、総合西市民プールの改修にかかる実施設計を行う。 ・ラグビーワールドカップ2019福岡開催推進委員会事務局において、節目イベントなどの機会を捕らえたイベント実施等引き続きPRを行い、さらなる気運醸成及びチケット販売促進に取り組むとともに、実施計画を踏まえ、警察や事業者等各計画に係る関係者との調整を行い、円滑な大会運営を行う。また、大会ボランティアについては引き続きラグビーワールドカップ2019組織委員会と連携して研修及び運用を行う。 ・2021年開催の世界水泳選手権福岡大会については、大会基本計画を策定するなど開催準備を進めるとともに、大会ホームページの開設や2019年光州大会でのPRなど、大会の周知や気運醸成を行っていく。 ・市民が高いレベルのスポーツに触れ、自らもスポーツを体験できる機会を創出するため、国際スポーツ大会などに参加するトップアスリートとの交流会等の企画を推進していく。

国際スポーツ大会等の合宿地としての取組み

進捗	・東京 2020 オリンピック・パラリンピックの事前合宿地として、スウェーデンオリンピック委員会及びノルウェーオリンピック委員会の視察を受け入れた（H30. 7, H30. 9, H31. 1）。 ・ラグビーワールドカップ 2019 の公認キャンプ地に内定（H30. 4）し、各チームの視察を受け入れた。（イタリア：H29. 12, アメリカ：H30. 2, サモア H31. 3） ・ラグビーワールドカップ 2019 の公認キャンプ地として組織委員会と契約締結（H30. 11）
課題	・東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に関し、どのように気運醸成を図るか。 ・各種競技の事前合宿については、それぞれの競技団体、スポンサー企業等との恒常的な関係構築と情報収集が重要であるが、自治体単独ではそうした取り組みが困難。
今後	・事前合宿を成功させ、福岡市の評価を高めることが、新たな事前合宿の招致に繋がるため、地元企業・団体等と連携し、受け入れ準備を丁寧に進める。今後、スポーツ庁や、JOC その他の団体等と連携し、各種競技団体やスポーツ大会に関する情報収集に努める。

総合体育館整備の推進 <再掲 1 - 5>

進捗	・総合体育館の整備については、PFI 事業契約に基づき、設計を行い、H29. 2 から建設工事に着手。H30. 12 から供用を開始した。
課題	・特になし。
今後	・PFI 事業者が実施する運営・維持管理業務のモニタリングを行う。

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり

進捗	- 福岡市に拠点を置く、アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファーフクオカ等と協力して、市民や選手・監督・コーチが触れ合うスポーツイベント（スタージャンプ、スポーツフェスタ）の取り組みを支援している。 - アビスパ福岡と協力して、子どもから高齢者までを対象としたサッカー教室等の実施や市民の観戦招待事業等を通じて、市民がアビスパに触れる機会を創出している。 * サッカー教室の開催件数 H29n:102 件 → H30n:128 件 (内訳) ・ 親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） H29n: 7 件 → H30n: 7 件 ・ 少年少女サッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） H29n: 66 件 → H30n: 92 件 ・ アビスパ健康教室（およそ 60 歳以上を対象とした運動啓発教室） H29n: 15 件 → H30n: 15 件 ・ ブラインドサッカー教室（小学生以上を対象としたコーチ及びブラインドサッカー選手による体験教室） H29n: 14 件 → H30n: 14 件 * 観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） H29n: 3 件 → H30n: 3 件 * 心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） H29n: 20 件 → H30n: 20 件
課題	アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファーフクオカなど多彩なプロスポーツチーム等が活動していることから、スポーツ観戦環境は恵まれているが、各チームが取り組む地域に根差した取り組みなどについては広く認知されていないものもあり、その活動の周知が不十分である。
今後	- 市民の認知度を高めるため、プロスポーツチームの試合情報や地域に根差す取り組みについて、広報活動を支援する。 - 各スポーツチームが取り組んでいる市民とのスポーツ交流活動を支援する。

大相撲九州場所等に触れる機会づくり

進捗	- 大相撲九州場所の支援として、街路灯バナーの掲出、CM 映像放映等の PR を実施。 - 市内の小中特別支援学校を対象とした観戦招待事業に加え、こども観戦招待事業を実施した。 * 市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業 H29n: 25 校 → H30n: 25 校 * こども観戦招待事業 H29n: 285 人 → H30n: 290 人
課題	- 観戦招待事業については、市内の小中特別支援学校へ広く募集の案内を行ってはいないものの、応募上限を設けており、児童生徒の少ない小規模な学校などに応募が偏っている現実がある。 - こども観戦招待事業については、招待券の取扱い方法など引き続き日本相撲協会と協議していく必要がある。
今後	観戦招待事業及びこども観戦招待事業について、今後、より多くの児童・生徒や市民が観戦機会を得られるよう、参加者や市民のニーズを踏まえて、日本相撲協会や福岡コンベンションセンター等関係団体と連携して検討を進めていく。

施策 5－6 国内外への戦略的なプロモーションの推進

1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●シティプロモーションの推進

市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進

・外国人入国者数 H29n : 298 万人 → H30n : 309 万人

★海外現地プロモーション回数 H29n : 1 回 → H30n : 1 回

・情報発信・招請事業回数 H29n : 20 回 → H30n : 23 回

フィルムコミッションによるシティプロモーション

・海外作品撮影支援件数 H29n : 12 件 → H30n : 9 件

●クルーズ客拡大への取組み

多様なクルーズの誘致

★海外コンベンションへの参加回数 H29n : 2 回 → H30n : 2 回

クルーズ船の受入体制の整備

・クルーズ船寄港回数 H29 : 326 回 → H30 : 279 回

クルーズ客の受入体制の整備

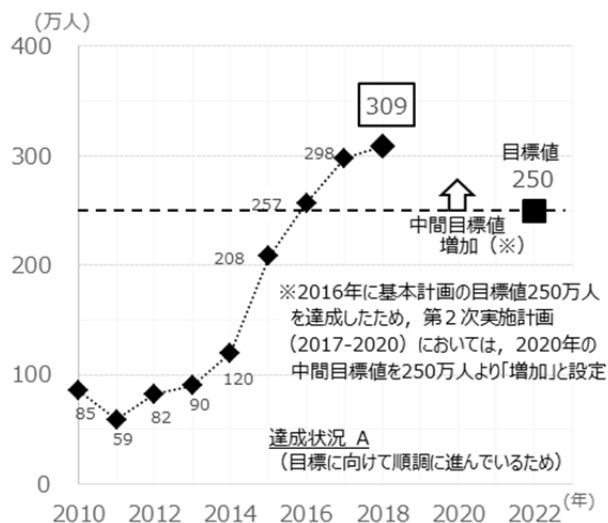
・外国航路船舶乗降人員数（不定期） H29 : 168.4 万人 → H30 : 160.2 万人

・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数

H29n : 5,777 台（H29.6.1 供用開始） → H30n : 6,092 台

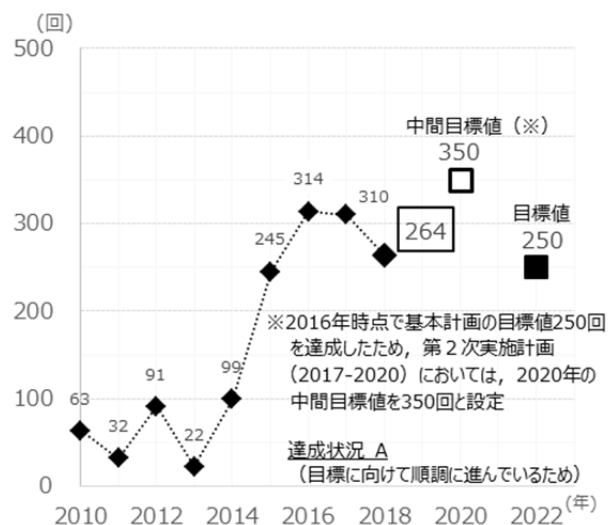
2 成果指標等

①福岡市への外国人来訪者数



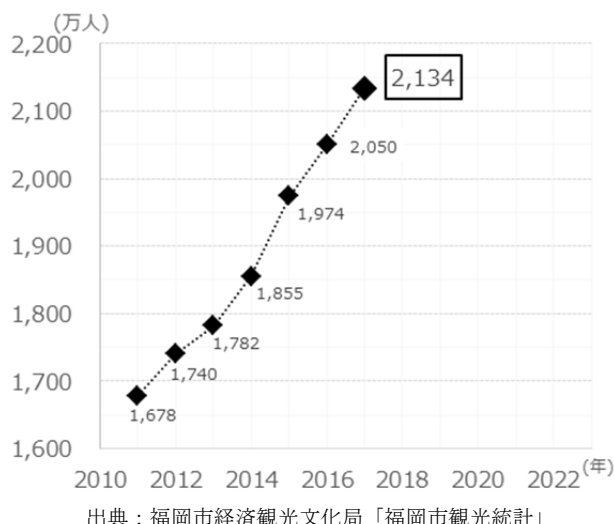
出典：法務省「出入国管理統計」

②外航クルーズ客船の寄港回数



出典：福岡市港湾空港局調べ

③入込観光客数〔補完指標〕



出典：福岡市経済観光文化局「福岡市観光統計」

<指標の分析>

指標①は、増加となっており、これはLCC普及や円安、ビザ緩和等により訪日旅行需要が好調であり、入国者数が最も多い韓国をはじめ、台湾、香港などの東アジアやベトナム、フィリピン、マレーシアなどの東南アジアを中心に、入国者数が前年と比べて増えているためである。

指標②は、減少しているが、これは中国を中心に急速に拡大したクルーズ市場において、多くの船社の参入による過当競争が生じたため、短期的にクルーズ需要が踊り場の状況にあるためである。

指標③は、増加となっており、これはホテルの増加や観光・MICEの積極的な誘致・受入などが影響していると考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●シティプロモーションの推進

市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進

進捗	・国内では3大都市圏、海外では直行便の就航するアジア等をターゲットに、観光展・説明会の参加、他都市との連携によるプロモーション活動等を実施。 ＊観光展・説明会等：14件 ・福岡の認知度向上や旅行商品の造成促進を図るため、海外メディア等による情報発信や旅行会社等の招請を実施。 ・世界最大級のオンライン旅行会社「エクスペディアグループ」と観光振興連携協定を締結し、欧米豪市場に関する宿泊施設向けインバウンドセミナーを実施。 ＊外国人入国者数 H29n：298万人 → H30n：309万人 ＊海外現地プロモーション回数 H29n：1回 → H30n：1回 ＊情報発信・招請事業回数 H29n：20回 → H30n：23回 【地方創生推進交付金事業（横展開タイプ）】 福岡市・九州離島広域連携事業 ・九州の離島3市2町と連携し、受入環境の整備や国内外へのプロモーション等を実施。 ＊重要業績評価指標（KPI） ・離島航空路・航路利用者数（福岡からの直行便のみの降客数、1月～12月） H29n 実績値：561,586人 → H30n 実績値：579,403人 ・外国人延宿泊者数（福岡市を除く、1月～12月） H29n 実績値：178,489人 → H30n 実績値：227,523人（見込値）【R1.10頃確定】 ・本事業で造成する旅行商品（福岡経由または福岡発離島行き）の利用者数 H29n 実績値：470人 → H30n 実績値：2,996人
課題	・船舶観光上陸許可によるクルーズ船での入国者を除き、外国人入国者の8割以上を占める韓国・台湾などの東アジアに加えて、直行便が就航している東南アジアや大型スポーツMICEの開催により更なる来福増加が見込まれる欧米豪など、より多様な国・地域からの誘客を図る必要がある。 ・歴史・文化・自然を活かすエリア観光の推進の観点から、効果的なプロモーションが必要である。
今後	・堅調な伸びの東アジア市場に加え、航空路線が充実してきている東南アジア市場、ラグビーワールドカップ2019をはじめとする大規模スポーツMICEとの親和性が高い欧米豪市場など、今後の成長が見込まれる市場に対して重点的に観光施策を推進していく。また、日本政府観光局等、関係団体からの情報収集に加え、福岡観光コンベンションビューローや九州の各自治体等で構成する各種協議会とも連携し、九州のゲートウェイ都市としての機能強化を図っていく。

フィルムコミッションによるシティプロモーション	
進捗	- 福岡フィルムコミッションについて、海外作品 9 件の撮影支援を行った。 *海外作品撮影支援件数 H29n : 12 件 → H30n : 9 件 - また、アジアフォーカス・福岡国際映画祭のゲストに対してロケ候補地を案内しプロモーションを行ったほか、釜山などの国際映画祭に併せて開催される海外の見本市等において撮影誘致活動を実施。 - 国内では、映画「めんたいぴりり」(H31.1)を活用したプロモーション活動を実施。 - 海外については、韓国映画「福岡」のベルリン国際映画祭での上映に併せ、会場で福岡のプロモーション活動を実施。
課題	- 海外で話題となるような、福岡を舞台とした映画・テレビドラマ等の作品が不足している。 - 撮影環境、慣習の違いから、海外の撮影隊を受け入れる十分なノウハウを持つ事業者が少ない。 - 福岡で撮影された映画等のロケ地について、情報発信が不足している。
今後	- 福岡フィルムコミッションにおいては、アジアフォーカス・福岡国際映画祭を活用した撮影誘致活動やインターネットなどを活用した効果的なプロモーションを実施。 - 海外からの撮影隊に地元映像関係者が参画する場を提供することで、ノウハウの蓄積、人材育成につなげ、海外からの撮影受け入れ体制の充実に取り組む。 - 支援作品の公開等に合わせ、ロケ地や作品を活用した観光PRやシティプロモーションを行う。

●クルーズ客拡大への取組み

多様なクルーズの誘致	
進捗	- 国内外の船社・代理店訪問や海外コンベンションへの参加を通じた誘致活動、見学会・セミナー、出前講座等を通じた博多港発着クルーズ振興を実施。 - 外国船による博多港発着定期定点クルーズを H30n に 11 回実施。 - 福岡市及び日本におけるクルーズ振興やアジアのクルーズ市場の持続的発展を目的として、第 5 回福岡クルーズ会議を開催 (H31.1)。 *海外コンベンションへの参加回数 H29n : 2 回 → H30n : 2 回 - 博多上海両港を発着するクルーズの試験運行ツアーを H30n に 4 回実施。
課題	急成長するアジアクルーズ市場を背景に、全国的にクルーズ船誘致活動が活発化しており、クルーズ船社から博多港が寄港港及び発着港として選ばれるように、上海との連携の活用や新たな市場の開拓など、より活発な誘致活動が必要。
今後	- アジア以外の地域からのクルーズなど多様なクルーズを誘致するとともに、船社への働きかけや上海等他港との連携により、博多港発着クルーズの更なる振興を図る。 - F I T (訪日外国人個人旅行) の振興などによる寄港地観光ツアーの多様化・上質化に取り組む。

クルーズ船の受入体制の整備	
進捗	・クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため、国において、中央ふ頭西側岸壁の延伸を進め、H30.9に供用を開始し、世界最大級のクルーズ船の着岸が可能となったほか、中型船同士など、組み合わせによっては2隻同時着岸も可能となった。 ・バス待機場スペースをはじめとした、クルーズ船受入の用地確保のため、中央ふ頭東側民間倉庫のクリアランスを完了した。 ＊クルーズ船寄港回数 H29：326回 → H30：279回
課題	・クルーズ船寄港回数の急増や船の大型化による港湾施設の不足。 ＊クルーズ船寄港回数 H26：115回、H27：259回、H28：328回、H29：326回、H30：279回。 うち、外航クルーズ船寄港回数 H26：99回、H27：245回、H28：314回、H29：310回、H30：264回。
今後	・拡大を続けるアジアクルーズへの需要に対応できるよう、大型クルーズ船の2隻同時着岸に対応した岸壁の整備や、それに伴う旅客ターミナル及びバス待機場の機能拡充など、受入機能のさらなる強化に取り組む。

クルーズ客の受入体制の整備	
進捗	・観光地周辺等における活用可能性のある公有地等の調査・検討を行い、実施。 ・福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。 ＊樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 H29n：5,777台（H29.6.1供用開始）→ H30n：6,092台 ・市営博多駐車場跡地における観光バスを含めたバス乗降場の確保について、施設運営事業者など関係者と運用方法等の協議・調整を行った。 ＊外国航路船舶乗降人員数（不定期） H29：168.4万人 → H30：160.2万人 ・クルーズ客の円滑な受入や利便性・快適性の向上を目的とした、屋根付通路を、中央ふ頭西側岸壁延伸部分に導入（H31.3供用開始）。 ・入国審査及び税関検査の強化・迅速化のため、箱崎ふ頭に税関検査施設を設置（H30.11供用開始）。
課題	・クルーズ客のツアーが一部の商業施設や観光地に集中しているため、市内で交通混雑が発生。 ・観光地周辺等における恒久的な観光バス駐車場等の整備においては、十分な広さを有した適地の確保が困難。
今後	・観光バス駐車場等の確保に向けた活用可能性のある公有地等の調査・検討を行う。 ・寄港地観光手配予約システムの活用などによる訪問先・時間の分散化に取り組む。 ・クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。 ・箱崎ふ頭の税関検査施設において、物販など、おもてなしの向上に取り組む。 ・受入業務の更なる効率化を図るため、クルーズ受入にかかる現場実務全般の実施・統括業務を外部委託化する。

